

『涙でできた氷山』

加藤某

俺は遠く遠く北へ北へと向かった。
遠かったけれど、たしかに高い山々に囲まれた村についた。
そこで見たものを記す。

①涙の氷山観測センター

広く柵が張り巡らされている。柵の向こうには涙の氷山が屹立している。
柵の前には、液晶パネルの付いた機械が設置されている。
この機械の液晶パネル部分の下には直径15センチ程の穴が空いている。
穴はとても深く、どこかに繋がっている様子である。
柵には「ここから先立ち入り禁止」の表示がある。

ガイド　涙の氷山観測センターへようこそ。私はこちらのガイドでございます。あ、お涙頂戴！当センターはその名の通り、主に涙の氷山を観測する為でございますが、この建物はいくつかの機能毎にわかれております。まずは今皆様がいらっしゃる涙の氷山観測棟でございます。こちらは涙の氷山をもっともよく眺めることができる観測にはもってこいの場所ですので、一般のお客様にも開放されております。皆様の前にございます機械に穴が空いているのが見えるかと思えます。これは涙収集穴でございます、¥10000をお支払い頂ければどなたでもご自分の涙をこちらの穴に落として頂くことが出来ます。¥10000につき100ml落として頂くことが出来ます。落として頂いた涙は涙の氷山の一部となるシステムとなっております。一口山主、みたいなものでございますね。様々な著名人の方々もここで涙を流していかれましたんですよ。みなさまの多様な心の動きこそが、涙の氷山を育てるのでございます。みなさまのお涙、奮ってお流してください。あ、お涙頂戴！

また、この柵の向こうには現代科学の粋を集めた精密なセンサーが張り巡らされており、涙の氷山の高さ、成分の遷移など様々なデータを収集しております。本日の高さは6 6 5m！涙の氷山が大都会のランドマークの高さを追い越した記念すべき日でございます。

そして次に、涙の氷山資料館。ここには涙の氷山に関する様々な資料が残されております。涙の氷山には、まだまだ謎が多く残されておりますので、研究者達にとってはこちらの資料館はとても貴重な存在なんでございます。涙の氷山はたしかに氷なのですが、どういうわけか温かい。ということはそこにはエネルギーが存在しているということでございまして、このエネルギーは人類を救う新エネルギーとして注目されているとかいないとか！涙の氷山の謎が解明されれば、人類の未来も大きく拓けるとか拓けないとか。皆様研究者達にエールを！

そして最後に涙の氷山、物産センター。涙の氷山へお越しの際のお土産のお買い求めは是非こちらへ。特殊技術で涙の氷山から抽出した涙の塩シリーズ、喜びの塩、怒りの塩、憎しみの塩、またその塩を揉み込んだ涙の浅漬けなど人気商品が目白押しでございます。

それでは本日は心ゆくまで、ごゆるりと涙の氷山をお楽しみくださいませ。ご不明点などございましたら、何なりとお申し付けくださいませ。あ、お涙頂戴！ありがとうございました。あ、お客さま、そちらの柵の向こう側にはくれぐれもお立ち入りなさいませんようお願いいたします。くれぐれも。

②世紀の大泥棒

大泥棒 今日では665m到達記念日ということで、施設はマスコミ対応で忙しくしてるぜえ。有名どころの号泣タレントもイベントに参加するとかで、人混みも出来るから、警備も手薄になりがちだ。決行するなら今日しかねえぜえ。狙うは涙の氷山の頂上に鎮座すると言われている、無限のハートだ。これまで何千年、何万年ともいわれる間、積もりに積もった、人間のありとあらゆる感情のエネルギーが凝縮された、最新鋭の科学ですら追いついていない領域のエネルギーだ。涙の氷山が温かいのはこいつのおかげだとも言われている。こんなものの存在が証明されちゃったら、フッカフカの椅子の上でふんぞり返ってやがる連中は懐かしのドリフのコント並にスツ転ぶだろうなあ。うっへへへ、さあお楽しみだ。

ん？何故盗むのかって？目の前にお宝があるから、それだけじゃ不十分かい？

③警備たち

警備1 あーあ、忙しいなあ。そんな記念日なんてどうだっていいじゃねえかなあ。

警備2 やらなきゃいいんすよ。

警備1 割にあわねえよな、全く。暇なときだけシフト入りてえよ。今日マンガアプリで10冊無料デーだったのになあ。あの号泣タレント呼んでだれが喜ぶんだ全く。あんな涙、偽もんだろだいたい。夫に不倫されて涙流して、それでたんまりお小遣い稼いでやがるんだから。

警備2 嘘の涙でも氷山の一部になれるもんなんですかね？

警備1 さあね。（あくびをする）は一、眠いなあ。こっちは夜勤明けだっていうのによお。35時間通しで出勤してるぞ。ブラック企業なんてもんじゃねえ。

警備2 泣いてんすか？

警備1 バカ、あくびだよ

警備2 そのあくびの涙も氷山にしてみたらいいんじゃないすか。¥10000かかりますけど。

警備1 馬鹿馬鹿しい。そんなことに¥10000払うやつらの気が知れねえよなあ。時給850円の俺たちじゃ尚更だ。

警備2 一番泣いていいのは俺たちっすよね。。。死にてえ

急に真っ暗になる。警報。

警備1 おいおい、なんだなんだよこれ。割にあわねえなあ。

警備2 え、これどうすればいいんすか？

警備1 マニュアル通りにやれよ。

警備2 えーと

警備1 今日のマニュアル、復唱！

警備2 えー、非常時には号泣タレント、マツイさんの盾となること。死守すべし、死守すべし。死守すべし

警備1 マツイさんを、死守すべし。死守すべし。死守すべし。死守すべし。

警備1の声は揺らぐ

警備2 泣いてるんすか？

警備1 バカ、あくびだよ。

暗闇の中、警備 1、2 の泣き声が聞こえる。

④目撃者

子供　わたしねー、お土産みてたの。ママに、涙のクッキー買って買って、っておねだりしてたの。

すごい欲しかったんだもん。でもね、買ってくれないっていうからね、わたし寝そべって大泣きしたの。これがわたしの切り札なの。

それでいていのものは買ってもらえるの。嘘泣きだけどね、大人はそんなこと知らずに言うことを聞いてくれるって、わたし知ってるから。

あの時も、きれいに寝そべって、激しく泣こうとした時だったわ、急に辺りが真っ暗になって、仰向けになったわたしの目に、遠くの方で仄かな光が瞬くのが見えた。お星さまだ！って思ったわ。お星さまがわたしの願いを叶えてくれる、わたしのクッキーを食べたいという想いがお星さまに通じたのよ！って思ったの。

瞬く光はゆらゆらと空を漂ったと思ったら、ピカッて、ううん、ちいさなピカッじゃなかったのよ、世界中が真っ白になるくらいのピカッてなったの。

まるで、世界が白い紙に鉛筆で書いた画みたいに見えた。そしてまたすぐに真っ暗になったわ。それから私は周りにいた人達の様子が変わったことに気づいた。笑っている人、怒っている人、悲しんでいる人、みんなバラバラに理由もなく笑ったり、怒ったり、悲しんだりしているみたいだった。でも全員が涙を流していたわ。何百人という人達が一斉に。

暫くして電気が点いて、ショーウィンドウに映った私も、普通じゃないくらいに泣いていたの。理由は自分でもわからない、でもすごく悲しかったわ。

私以外の誰かの悲しみがそっくりそのまま、私の中に入って来たみたい。私の中で誰か全く別の人が悲しんでいるみたいだった。すごく悲しかったの。

嘘じゃなくってね。クッキーが食べられないなんて、そんなの比べ物にならないくらいの、悲しみよ。どう言えいいかわからないけど。傍にいたママにどうしようもなく抱きしめて欲しかったわ。ママと離ればなれになるような気がしたの。ママも泣いていたけど、泣きながらママと抱き合ったの。

そして泣き止んでから、気がついたわ。涙の氷山は跡形もなく消えていた。ううん、ユリゲラーはいなかったわ。

私思うの。きっと私が嘘つきの涙を流してたから、お星さまに怒られちゃったんだって。私これからはウソを付かないわ。本当に必要な時以外はね。

⑤世紀の大泥棒

世紀の大泥棒　彼は泣いているようにみえる

大泥棒　俺はグライダーで涙の氷山の頂上まで辿り着いたぜ。難くな。

無限のハートはたしかにそこにあったぜえ。これまでに見たことないような光を発してた。

そいつをこの手につかんで、仲間が操縦するヘリから垂れてるロープに掴まって、飛び去ろうとした、その時だった。

眩い光に全身が包まれて、目がくらんだ。

その瞬間、沢山の人の声が聞こえたような気がしたよ。

会ったこともない人達の何万だか何十万だかわからない程の声が、それでもはっきりと聞こえた。

へりに乗り込むと、何故か皆泣いていた、お互いに何も言わず。無限のハートはどっかに行っちゃった。

そりゃあ、これからお宝を盗みにいくさ。泣きながらでもな。

了